

生徒発 学校魅力アップ

盛岡・杜陵高本校定時制(三田正巳校長、生徒99人)は本年度、生徒自らの学校の魅力づくりに力を入れている。地域住民らによる学校運営の議論に生徒会が参加。夏祭りなど地域行事とのコラボへ動き出した。多様な背景と個性を持つ生徒たちは、大人との対話を通してコミュニケーションの自信を深めている。

盛岡・杜陵高 本校定時制

「商店街と連携した文化祭を開いてはどうか」「校内に『集いたくなる』場が必要」。今月上旬、盛岡市上田の同校で開かれたコミュニケーションスクール(学校運営協議会、CS)の第1回会合に参加した生徒会役員の6人は、学校の魅力向上へ堂々と思いの丈を述べた。

同校には不登校を経験したり、人間関係に悩む生徒が多く通う。学校側は、保護者や地域の代表が集うCSは「子どもが信頼できる大人と意見を交わし、自己肯定感を育む機会」と捉え、生徒の参加を促した。生徒会長の平野天音さん(3年次)は「意思表示や対話の力

地域参画 深める自信



CSの会合で意見を述べる生徒会役員のメンバー。大人を前にした自己発信の機会が、対人コミュニケーションの自信を育てている。

商店街と夏祭りへ始動

が社会に出たときに求められると思う。将来は障害者教育に携わりたいので、仲間と取り組む成長の好機を生かしたい」と意識を高める。

生徒の熱意にCSの委員らも呼応する。CS会長で上田商店街協同組合の吉田真雄専務理事(43)は「まずは8月の商店街夏祭りを一緒に盛り上げたい」と意欲。その上で「さまざまなか

(小野寺隼矢)